

2018年度 大学自己点検・評価(国際学研究科)自己点検・評価総括用シート 1

＜国際学研究科の教育研究目標の進捗状況＞

教育研究目標(タイトル)		評価指標	評価尺度	進捗状況
目標1	国際学研究科の継続的発展	毎年度の前期課程入学者と修了者の数	A: 入学者と修了者が各6名以上	2018年度目標値 B
			B: 入学者と修了者が各3名以上 C: 入学者と修了者が各1名以上 D: 入学者と修了者のいずれかが0名	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) A
目標2	国際的課題に取り組む研究者の育成	毎年度の後期課程入学者と修了者の数	A: 後期課程修了者が調査研究職として就職した。	2018年度目標値 B
			B: 後期課程修了者は出たが研究者として就職しなかった。 C: 後期課程修了者がいなかった。 D: 後期課程在籍者がいなかった。	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) B

<2016～2018年度の自己点検・評価の取組み総括>

総括1 <3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと>

理念、目的、方針については、毎年定期的に「3つのポリシー」をはじめとした本研究科の基本指針を確認することで、教職員1人1人が本研究科の運営方針を共有・再確認する機会となり、研究科全体として足並みをそろえた教育活動を行うために欠かせないプロセスとなっている。また、個別の取組みが理念、目的、方針から外れたものになっていないか、という視点を教職員個々が持つことについても、研究科内での意識は着実に高まっており、PDCAが根付いてきていることは改善点といえる。

また、個別目標としては「前期課程、後期課程それぞれの入学者数確保」、および、特に後期課程について「調査研究職に就く者を輩出すること」を目標に設定し取り組んできたが、昨年度ようやく初めての後期課程修了者を出したばかりであり、調査研究職に就く後期課程修了者の育成・輩出には今しばらくの取組みの継続が必要な見込みである。しかし前期課程、後期課程ともに入学者数は(年度ごとの浮き沈みはあるが)順調に推移しており、研究科運営が軌道に乗りつつあることを実感している。

評価専門委員・所見記入欄:

■総括1について

- ・ とくに気になる箇所はありません。適切に総括がなされています。(A)
- ・ 良好な進捗状況です。引き続き PDCA サイクルを機能させることで、更なる伸展につながることを期待します。(C)
- ・ PDCAサイクルが教職員に根付いてきたことは、これまでの研究科における自己点検・評価の1つの成果で言えると思います。引き続き今後の組織的な取組みに期待しています。(D)
- ・ 検証は適切に行われていると考えます。(E)
- ・ 全体として適切に自己点検及び評価が実施されていると思います。(F)
- ・ 研究科にも自己点検・評価のPDCAサイクルが根付いてきていることは喜ばしいことです。今後に期待します(G)
- ・ 学部同様に、研究科においても自己点検・評価の取組みが、研究科内に根付いてきていることは大きな成果と言えます。引き続き自律的・積極的な改善活動の取組みが期待されます。(H)